

校長室だより(No.35)

令和3年12月7日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

スクールソーシャルワーカー (SSW)

全ての子どもたちが安心して、安全に通うことのできる学校づくりをすすめるなかで、学校だけでは、どうしても解決できない問題が起きてきます。この学校だけでは解決できない問題を関係機関や専門機関の協力も得て解決していくことが大切だと言われて、「チーム学校」ということが言われはじめて久しくなっています。どちらかといえば他の機関等と連携していくことが苦手な学校現場ですが、学校だけで抱え込まないために、問題解決には、管理職が中心となって他の機関の専門的な知識を積極的に活用することが大切だと考えています。

本校にも教育福祉の立場から丹波市のスクールソーシャルワーカー(柏原中学校在籍)や丹波教育事務所のスクールソーシャルワーカーに訪問いただき、相談にのっていただいています。

スクールソーシャルワーカー(SSW)とは、人と環境の関係に焦点を当て、子どもに影響を及ぼしている家庭、学校、地域環境の改善に向けて、学校、家庭、地域の支援ネットワークを築く福祉の専門家のことです。よく似た名前です。スクールカウンセラーがありますが、こちらは、心の問題を改善・解決していく心理の専門家です。(本校には毎週火曜日に来校いただいています。)

スクールソーシャルワーカーの主な仕事は、

- (1)問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ(学校の環境や教室での様子等からその改善点を探っていけます。)
- (2)関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整(丹波市の自立支援課等と連携・協力いただいています。)
- (3)学校内におけるチーム体制の構築、支援(学校訪問の折に学校の体制づくりを確認いただいています。)
- (4)保護者や教職員等に対する支援、相談・情報提供(主に不登校について助言いただいています。)
- (5)教職員等への特に福祉背景に関する情報の提供をいただいています。(研修)

社会的な問題としましては、「ヤングケアラー」の問題が最近、取り上げられています。ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、一般に、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」とされています。例としましては、「障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。」「家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。」「目が離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。」などです。ヤングケアラーは社会的認知度が低く、支援が必要な子どもがいても、子ども自身や周囲の大人が気付くことがなかなかできないといわれています。

また、従来からある問題としましては、「児童虐待」も新型コロナウイルス感染症の流行するなか件数の増加が懸念されています。

スクールソーシャルワーカーに学校のおかれている現状をうまく伝え、子どもたちの健全な成長に向けた支援をしていただけるようさらに連携していきたいと考えます。